梅花新聞【香里】
第42号
題字　管長 江川辰三 禅師
発行者　鬼生田 俊英
発行所　曹洞宗宗務庁
企画編集　伝道部詠道課

無我の慈悲行

曹洞宗 管長
大本山總持寺貫首
江川辰三（えがわしんざん）

平成三十一年（二〇一九）の新春を謹んでお祝い申し上げ、ここに梅花講講員の皆様のご多幸を祈念いたします。

旧年中の宗門各方面へのご支援ご尽力に、心より敬意を表します。本年もお力添えをお寄せいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年も日本各地において、自然災害による多くの甚大なる被害が発生いたしました。

被災されたあらゆる方々にお見舞いを申し上げると共に、被災地の速やかな復興を衷心よりお祈りいたします。すべての被災地再生への信念を絶えずお互いに共有し、力を合わせて前に歩みを進めて参りましょう。

さて、「修行」とは文字通り行いを修めることですが、われわれ仏様の教えに随順する者にとって、この行とは「仏行」のことであります。「修行」とは、行住坐臥において仏としての行いを実践することを指します。

そして両祖様は、各自が日々仏道に徹し、誠実に行ずることこそが即ち慈悲行の実践に他ならないとお示しになりました。一つひとつの行いによって自ずと周り全体が教化されていく境界です。

詠道においては、皆様が余念をはさまずに至心にお唱えを実践することが、何よりも重要です。そのときに身心はまさに無我の状態でありましょう。それによって、知らぬ間に周りの方々は安心（あんじん）に導かれ、自らも法悦に至ります。これこそ、菩薩の慈悲行に相応しい浄行であります。どうか今後とも、皆様相和（あいわ）して実践に勤（いそ）しんでいただきたいと念願いたします。

年頭にあたり、皆様のご多祥とご精進を切にお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

お誓い

私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活（くらし）をいたします。
私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

妙なる梅花　降らし浄めん

鬼生田俊英
（おにうだしゅんえい）
梅花流特派師範・梅花流専門委員などを経て、
平成９年より
曹洞宗宗議会議員
福島県郡山市
廣度寺住職

あけましておめでとうございます。

昨年十月十六日に宗務総長に就任しました鬼生田俊英です。よろしくお願いします。

私は、二十代の頃、梅花流の持つ豊かな表現、深い法悦感に魅せられて梅花流を始め、昭和五八年より平成八年まで梅花流特派師範の任を命じられ、全国を巡回しました。伺った先々の会場では、いつも講員の皆様が作り出す温かい雰囲気に包まれ、長旅の疲れも飛んでいくようでした。

梅花流の持つ親しみやすさ、和やかさという特長は、長年にわたる梅花流のあゆみの中で育まれたものかと思います。

宗務総長の任期中、多くの方に梅花流の良さを伝えて参りたいと思います。

それでは、皆様、熊本の全国大会でお目にかかりましょう。

梅花新発 ～ばいかあらたにひらく～

中村見自
（なかむらけんじ）
平成 14 年より
曹洞宗宗議会議員
曹洞宗教化部長・梅花講審議会参与などを歴任
鳥取県倉吉市
大岳院住職

昨年十月に、伝道部長に就任いたしました中村見自でございます。

二年間の任期のなかで、皆さまと梅花流詠讃歌を通して親しくお会いできますことを楽しみにしております。

さて、まずは五月に熊本県で行ないます全国奉詠大会が大きな仕事となります。詠道課の職員共々、綿密に諸準備を進めて参りたいと思います。

梅花流のお唱えは心に沁みます。未だ聴いたことがないという人に、どれだけ梅花流の歌声を届けることが出来るかが、私の務めだと思っております。

とは言え、音楽の成績は常に最低ランクでしたので、お唱えは皆様にお任せして、それ以外のところで尽力する所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

▼受け入れ準備進む▼▼

平成三一年度梅花流全国奉詠大会

来る五月二二日・二三日、熊本県上益城郡益城町「グランメッセ熊本」で平成三一年度梅花流全国奉詠大会が開催される。テーマは「復興」。熊本地震から三年、未だ復興途上である熊本に梅花流の妙なるお唱えが響き渡る。

平成二八年四月、熊本に激震が走った。益城町は、十四日と十六日の二度に渡り震度七を記録。グランメッセ熊本も広範囲にガラスが割れ天井が剥がれるなどし、一年以上休館を強いられた。耐震性を強化し機能を向上させて平成二九年七月に改めて開館。

熊本産業展示場グランメッセ熊本外観

より一層安全な施設となって全国の梅花講員を待ち侘びている。

大会では、両日合わせて約九千人が会場に集う。参加申込みも締め切られ、今後は具体的な受け入れ準備が進められていく。最も気を配るのは円滑な登壇奉詠。登壇者がお唱えに専念できるよう、伝道部詠道課と関係各方面が協議し工夫を凝らしている。梅花流の清らかな調べが犠牲となられた方々に届き、参加者の笑顔が熊本の復興を力強く後押しできるよう万全の体制を整えていく。

祈りの梅花、九州・熊本の地で

梅花流を通して全国各地で多発する自然災害からの復興に対し『祈り』を捧げます。一人ひとりの持つ祈りの力を信じ、詠讃歌のお唱えによる調和をもって心の平安を切に願う機会になればと思います。今も尚大変な状況において祈りを捧げられる人々に想いを重ねて祈ることが、そのままに心の安寧につながっていくと信じます。

熊本地震から三年が経とうとしておりますが、今なお約二万三千人が仮設住宅やみなし仮設住宅や復興住宅に住んでおられます。

全国各地からのボランティア活動、そして富山県・福井県・静岡県の全国大会において皆様から多額のご浄財を賜りましたことに対し心から感謝申し上げる次第です。誠に有難うございました。

熊本の観光としては、カルデラ火山の阿蘇や、イルカが泳ぐ天草の海、日本三大急流の球磨川、数多くの温泉地があり、自然がとても豊かです。伝統芸能として活力みなぎる牛深ハイヤ節や、幻想的な山鹿灯籠踊り、水前寺の曹洞宗の和尚様が考案した黄色い辛子レンコン、馬刺し・球磨焼酎と美味しいものが沢山あります。日本三大名城の「熊本城」は、お城の修復の様子が見れる大変貴重な機会です。

皆様のお越しを心からお待ちしております。

九州・熊本の地で共にお唱えし、共に『祈り』を紡ぎましょう。

来てはいよ！

曹洞宗熊本県第一宗務所
曹洞宗熊本県第二宗務所

功徳のグルメ

見た目はちゃんぽん、
でも麺が春雨…揚げタマゴ?!
その名は太平燕（タイピーエン）。
具材たっぷり。コクがあって、
おーうまいっ!!
春雨が喉をすべり落ちていく！

熊本市民のソウルフードらしい。ぜひご賞味あれ。
願わくは此の功徳を以て…ごちそうさまでした。

平成30年度 宗務庁主催

大本山にお唱えが響く

梅花流檀信徒講習会が十一月七日・八日、大本山總持寺を会場に開催された。一一四名が各地より参集し『太祖常済大師瑩山禅師第二番御詠歌』などを学んだ。

（大本山永平寺では七月十一日・十二日に開催）

爽やかな秋晴れの下、大祖堂で勝田浩之副監院老師を導師に一仏両祖に献詠して開講。三松閣に会場を移し山中律雄、西村宏司、近藤如生、宮澤匡俊の各梅花流特派師範により講習が行なわれた。

今期で特派師範の任を終える山中師範は「御本山でお唱えできるというのは梅花冥利に尽きる。参加された皆さまと共に有難い功徳を積むことができた」と感慨深げに語っていた。

次年度の予定は左記のとおり。

大本山永平寺会場　七月十一日～十二日
大本山總持寺会場　十一月十八日～十九日

回を重ねまごころ届ける

第13回　第14回　スマイルアゲイン

震災被災地支援を掲げ「歌声で 捧げよう祈り 届けようまごころ」をテーマに有志が開催している「スマイルアゲイン梅花のつどい」が十一月十二日東京都青梅市の天寧寺を会場に、翌十三日に八王子市の高乗寺を会場に開催された。

近隣の埼玉県や神奈川県からの参加もあり、天寧寺法堂は一一六人の梅花講員で埋め尽くされた。笑顔あふれる楽しい講習で『無常御和讃』など三曲を練習。講習後の全国災害物故者追悼法要で奉詠して祈りを捧げた。三回目の参加という久保田信子さん(横浜市大林寺梅花講)は「なかなか被災地には行けないが、皆で心を一つにお唱えして追善供養できる機会がありがたい」と、梅花流を通じた心の触れ合いに感謝していた。

後日、参加協力費から昼食代を差し引いた金額他が北野良昭師範により曹洞宗義援金に寄託された。第十三回(天寧寺会場)は二九万七千円、六七名の参加があった第十四回(高乗寺会場)は二十万七千円。

なお、昨年十月には道心利行の活動に対して曹洞宗管長から表彰状が贈られている。

熱心に指導する北野良昭正伝師範

梅花流詠讃歌練習アプリ

スマートフォンやタブレット端末でお使いいただける「梅花流詠讃歌練習アプリ」をアップデートしました。

日々の練習などにご活用ください。

アップデート内容

- 演奏時の音質の改善
- 自動再生機能の曲目追加
- キーボード画面のキー配置の変更
- 自動再生での同じ音が連続して聞こえる部分の修正

※機種・OSのバージョンによっては、アップデートできない場合があります。

アップデート方法

- **アンドロイド版**
  Play ストア→「梅花流詠讃歌練習アプリ」
- **iOS 版（iOS9.0 以上）**
  App Store →「梅花流詠讃歌練習アプリ」

ばいかクイズ

さて、この曲は何でしょう?

答えは四頁左下に記載

精鋭集結

詠道に邁進
―研修員が始動―

平成三〇・三一年度梅花流研修員が委嘱され十月二三日～二六日、第一回研修会が行われた。再任の十三名に新任を加え総勢三〇名が顔を揃えた。主任講師は梅花流専門委員の小野田秀貴師範。片岡修一、谷口充洋の両梅花流特派師範を講師に迎え、曹洞宗檀信徒会館を会場に濃密な研修を終えた。

新任の本間秋彦さん(秋田県恵林寺)は「選ばれた者としての自覚と責任を持ち、誰よりも真摯に梅花流に向き合いたい」と抱負を語り、再任の櫛本淳道さん(島根県地久寺)は「詠唱が小さくまとまってしまい、想いを表現できていない」と課題を挙げる。

今後の梅花流を担っていく若き師範達の成長と活躍に期待がかかる。第二回は本年一月に開催。

梅花流研修員―指導者としての素養が認められる者を選び、その資質向上を図るため宗門が研修を受けさせる制度。任期中は、詠讃歌の研究や技能の習熟に努めることが義務付けられ、専門的な知識と指導力を身につける。

被災地だより

平成二九年十月三日、宮城県亘理町の當行寺で、「東日本大震災」物故者の七回忌追善法要と梅花流詠讃歌の講習が行なわれました。梅花流特派師範の有志の方々のご厚情によって開催されたものです。

有難い仏縁を無駄にすることのないようにと思い、宮城県内の全梅花講に御案内を差し上げたところ、気仙沼、女川、東松島などから、約百三十名の師範、詠範、檀信徒講員の方々がお集まりになりました。物故者の追悼と被災地の復興を願いながら、心の温まる一日を過ごすことができ大変嬉しく思いました。

このような形で特派師範の方々に足を運んでいただくのは、震災の当年と一周忌、三回忌、そして今回の七回忌で四回目になりました。

被災地に対する慈愛の満ちたご支援に心から感謝申し上げます。また、色々と御協力いただきました宮城県内の梅花講の皆様にも御礼申し上げます。

ありがとうございました。

當行寺寺族　岡崎るみ子

追善奉詠する當行寺本堂＝東日本大震災で犠牲となられた檀信徒の供養のために、一人ひとりの御名が書かれた提灯がびっしりと吊るされている

ワンポイントレッスン

大聖釈迦如来涅槃御詠歌（不滅）

二月十五日はお釈迦さまが入滅された日（涅槃会）です。御詠歌をお唱えして、ご遺徳を偲びましょう。

昭和三四年に久我尚寛師範の作詞、権藤円立先生の作曲により制作されました。

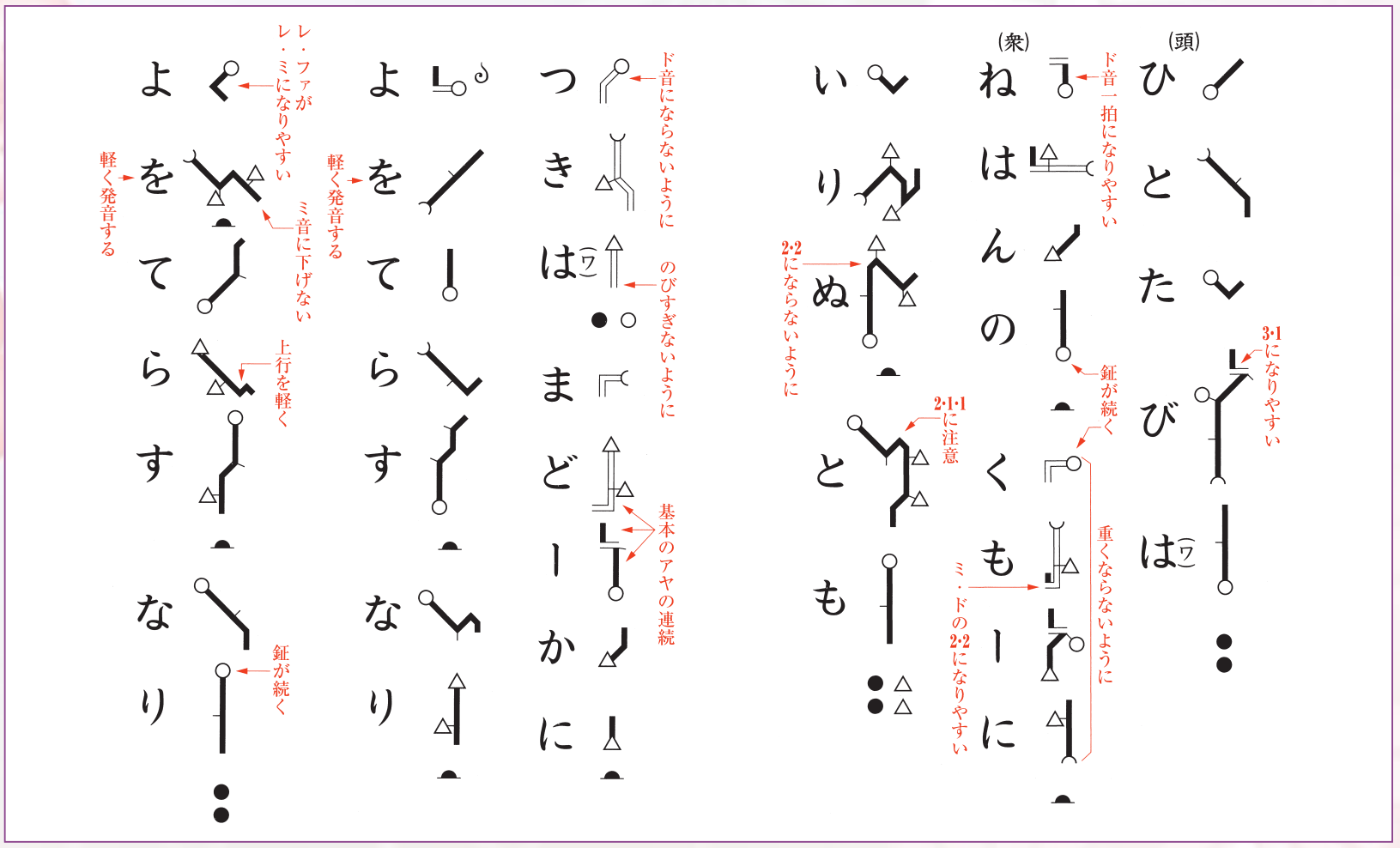
お釈迦さまは八〇歳のご生涯を終えられて涅槃に入られますが、その尊いみすがたは多くの弟子達の心に映る『法身』として、闇を照らす「月」の光に象徴される『教え』として、合掌・礼拝させていただくことになります。曲想が示すように、敬虔なまごころを捧げてのお唱えを願っております。

梅花譜の音階については、ファ音とシ音の音程の箇所が多く、ソ音がありませんので注意してください。

休止符については、半拍休止が八ヵ所あり、首や肩などの力を抜いて息を入れるようにしてください。呼吸の息でありますが、吸うというよりは「入れる」という感覚が望ましいでしょう。

こうして詠讃歌を学び、お唱えできる法縁の恵みは、得難く尊いものであります。皆さまのご精進を祈念申し上げます。

梅花流専門委員
福島県 恵倫寺住職
佐藤 憲晃



梅花妙楽

■梅花新聞『香里』の編集担当となり、バックナンバーを読み返した。過去の出来事を知ると同時に、梅花流の発展に多大な功績を残してきた方々の文章を読むことができ、なかなかに面白い。また、見知った先生達の若かりし日の写真に出会い、思わず何度も笑みがこぼれた。

■創刊は昭和五六年一月である。梅花流が産声をあげてから二八年の歳月が過ぎた頃だ。数々の名曲を作曲された安田博道正伝師範が、創立当時を回顧して寄稿している。半年後の第二号では、多くの作詞を担われた赤松月船名誉師範が、今で言う「ワンポイントレッスン」を行なっている。その後は、毎年一回発刊してきたが、今号より年に二回となった。これを機に紙面を大幅に変えてお届けしたが、読み易さはいかがか。

■創刊号より編集後記があり、時どきの担当者の労苦が垣間見える。しかし、「編集後記」では、香里は無粋と思い、タイトルを「梅花妙楽」とした。これは第一〇号に掲載された「信心のまごころでお唱えすれば、一声一声が梅花妙楽の声となる」という、丹羽廉芳禅師（正伝師範）のお言葉から頂戴した。

■ここでは、伝道部詠道課の苦楽や悲喜こもごも、取材を通して感じたことやお伝えしたい出来事などを記していく予定だ。どうか、このコラムも楽しみに『香里』を末永くご愛顧いただきたい。（詠道課）

◆クイズの答えは
観世音菩薩御和讃

【お詫び・訂正】
下記発行物に誤りがありました。
謹んでお詫びし、訂正いたします。

国際布教用冊子（英語版）
『Encounter with the Buddha』
24頁　Shōgō　上段五線譜　第三小節
誤「ソ - ラ - レ」　正「ソ - ラ - ド」

●法具寄贈のお願い●

詠道課では、中古の梅花法具を収集し自然災害などで被災された講員や僧堂にお送りして活用しています。眠っている法具がありましたら、下記までご送付ください。

〒105-8544
東京都港区芝 2-5-2
伝道部詠道課「中古法具」係
03-5454-5416
※送料はご負担願います。

曹洞宗宗務庁出版部
書籍のご案内
『梅花に学ぶ』
詠讃歌の歌詞の内容とそこに込められた教えが解された１冊。読みものとしてもおすすめです。
800円（税・送料別）
お申込み フリーダイヤル
曹洞宗ブックセンター
0120-498-971